

ベースロード市場 初回取引結果について

2019年9月13日
資源エネルギー庁

ベースロード市場（BL市場）の約定結果について

- 2019年8月9日にBL市場の初回オークション（2020年度受渡分、入札期間：7/30～8/9）の約定処理が行われた。
- 全国での約定量は184.3MW（1年間の電力量に換算すると約16.1億kWh）であり、各エリアの約定量及び約定価格は以下のとおり。
 - 北海道エリア：約定量 12.7MW（1.1億kWh）、約定価格12.47円/kWh
 - 東京・東北エリア：88.2MW（7.7億kWh）、約定価格9.77円/kWh
 - 西エリア：83.4MW（7.3億kWh）、約定価格8.70円/kWh
- また、昨年度の常時バックアップの調達量は約100億kWhであり、今回のBL市場の取引量は約16%に相当する（なお、昨年7月に取りまとめた「中間とりまとめ」において、常時バックアップとBL市場は政策目的が一部重複することから、BL市場からの調達に移行を促すこととされている。）。

商品エリア	約定量（MW）	約定量（億kWh）	約定価格（円/kWh）
北海道	12.7	1.1	12.47
東京・東北	88.2	7.7	9.77
西	83.4	7.3	8.70

売り入札の状況

- 電力・ガス取引監視等委員会による監視の結果、各大規模発電事業者の供出量は、いずれもベースロード市場ガイドラインで定める投入電力量を満たしていたことが確認された。
- また、ほとんどの大規模発電事業者は、供出上限価格をベースロード市場ガイドラインに沿った方法で設定し、それ以下の価格で市場への供出を行っていたことが確認された。

2. 監視の結果

- 監視等委員会事務局において、各大規模発電事業者の供出状況について詳細な分析を行うとともに、各事業者からその考え方等を聴取すること等により、ベースロード市場ガイドラインに基づく取組がなされていたかどうか確認したところ、以下の通りであった。

- ✓ 各大規模発電事業者の供出量は、いずれもベースロード市場ガイドラインで定める投入電力量を満たしていた。

※一方、買い入札量は売り入札量を相当程度下回っていた。約定量については、年間で3回実施されるオークションの第1回が終了したのみであるため、現段階では評価していない。

- ✓ ほとんどの大規模発電事業者は、供出上限価格をガイドラインに沿った方法で設定し、それ以下の価格で市場への供出を行っていた。

※大規模発電事業者のうち2社については、供出上限価格の計算に繰り込む燃料価格等の変動リスクに関して、ガイドラインに沿った手法で供出上限価格を算定していることが確認できなかったため、該当する事業者に対しその旨の指摘を行った。
このうち1社は、自社の計算した供出上限価格に繰り込んだ価格変動リスクを0としても、それを下回る価格で供出しているため、入札行動そのものに与える影響はない。
もう1社は、自社の計算した供出上限価格と同じ価格で供出しているため、供出上限価格を適切な方法で計算し直した場合、入札行動に影響がある可能性がある。

(注) 今回確認した入札量、供出上限価格及び供出価格については、次回以降のベースロード市場への入札行動に影響を及ぼす可能性があるため、非公表としている。

買い入札の状況

- 電力・ガス取引監視等委員会の監視の結果、買い入札量は売り入札量を相当程度下回っていたことが確認された。
- また、各エリアのBL市場の約定価格と、基準エリア（北海道、東京、関西）の2018年度平均エリアプライスを比較すると、どのエリアにおいてもBL市場の約定価格が平均エリアプライスを下回っている。

商品エリア	約定価格（円/kWh）	基準エリアの 2018年度平均エリアプライス （円/kWh）
北海道	12.47	15.03
東京・東北	9.77	10.68
西	8.70	8.88

今後のスケジュール

- 今年度は9月に第2回、11月に第3回のオークションが実施される予定。
 - － (参考) 今後の取引スケジュール
 - (第2回) 入札期間：2019年9月17日～27日、取引実施日：9月27日
 - (第3回) 入札期間：2019年11月12日～22日、取引実施日：11月22日